

第 58 回 日本生殖医学会

2013.11.15-16. 兵庫

二段階凍結胚移植 400 例の検討；単一胚盤胞移植の次善の策としての位置づけ

井上朋子、姫野隆雄、大西洋子、伊藤啓二郎、中岡義晴、森本義晴

目的

不妊治療の目的は高い確率で妊娠成立をめざすことではなく、周産期リスクを低くして患者により安全に分娩してもらうことである。この点で単一胚盤胞移植（SBT）は高い妊娠率と多胎を避けられるという長所があるが、SBT 不成功の場合に採用すべき次の治療法について検討した。

方法

2009 年から 2012 年までに当院で実施した体外受精治療のうち、2 個の凍結胚を用いた胚移植 1923 周期を対象とした。Day2 または Day2-3 の分割期胚 2 個移植 1471 周期 (DET)、胚盤胞 2 個移植 52 周期 (DBT)、Day2-3 の 1 個の分割期胚移植に引き続き胚盤胞 1 個を胚移植した二段階移植 400 周期 (2-step) について妊娠率、着床率、多胎率をそれぞれ検討した。

成績

患者の年齢分布は 25 歳から 50 歳だった。DET/DBT/2-step 群の妊娠率 (GS 確認) は 25.2%/46.2%/48.5% であり、着床率は 14.5%/31.7%/29%、多胎妊娠率は 15.1%/37.5%/19.6% であった。DET に比べて DBT・2-step 群で妊娠率と着床率が高かった ($p \leq 0.001$)。DET 群で平均年齢が高かったので、40 歳未満の症例に限って同様の検討をしたところ、妊娠率は 41.6%/48.8%/57.6%、着床率は 24.6%/35.4%/35.2%、多胎率は 18.3%/45.0%/22.2% となった。多胎率は DBT 群が DET・2-step 群より高かった ($p=0.05$)。

結論

二段階凍結胚移植法は、2 個の分割期胚移植に比べて妊娠率・着床率とも高く、しかも 2 個の胚盤胞移植よりも多胎率が低かった。当院の凍結単一胚盤胞移植 SBT の妊娠率 (54.4%) と比較して遜色ない妊娠率が期待できたが、2 割程度の多胎のリスクを常に念頭に置くべきである。単一胚盤胞移植で妊娠に至らない時には、2 段階胚移植を考慮するのがよい。